



情報部会セッション

テーマ

実務者に BIMがもたらす効果 耐震補強も省エネもBIMで解決!

運営 ■ 情報・広報委員会 情報部会

近年、BIMによる設計法が注目されています。導入効果の多くはビジュアライゼーションや設計段階における業務改善に特化したものが多いです。一方で、建築士は、2020年に義務化される省エネ基準への対応や、既存住宅の耐震診断、改修の促進など、日々の業務における対応に迫られている現状にあります。

大手ゼネコンではもはや当たり前となったBIMですが、設計者が抱える日々の課題を解決するほどのツールには至っていません。つまり、設計者や消費者に対しては利便性以上の解決策を持っていない(もしくは設計者が使いこなせていない)ため、いわゆるユーザー視点に立ったツールとしての課題が未だ多いことが挙げられます。

日本建築士会連合会情報・広報委員会では、傘下の広報部会



セッションイメージ(昨年大会より)

と情報部会が連携した特集企画(会誌5月号)でBIMを取り上げました。ここでは産学官を代表する執筆者が「BIMを活用したすぐそこにある設計の未来像」を述べています。

全国大会のテーマである「木」にフォーカスし、木造の耐震補強設計や省エネ法にBIMがどんな効果をもたらすのかにも触れ、実務者にBIMがもたらす効果を全国から参加した建築士とともに考えたいと思っています。

日時…平成29年12月8日(金) 10:00~12:00

会場…京都市勧業館「みやこめっせ」第2展示場

定員…50名(予定)

第5回 全国ヘリテージマネージャー大会

テーマ

歴史的建築物の 活用による地域創生

運営 ■ 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会

時代は大きく動きつつあります。一見、外国人観光客の急増という外圧に後押しされた動きという印象もありますが、「歴史的建造物の活用」が、観光対策や日本理解を推進するのに有効であるだけでなく、人口減少社会における地域創生の切り札の一つとして取り上げられていると見ることもできます。政策的には、2020年の東京オリンピックをめざして成果をあげるため、短期集中的に公費を投入する構えを見せています。こういった時代の流れに乗ることも大切ですが、それを利用してオリンピック後も地域創生の確実な動きを定着させていくことがより肝要です。

そのために、大会では各地におけるこれまでの地道な取り組みを共有しつつ、この動きを持続性あるものとしていくために何が必要なのか。現時点で40道府県でヘリテージマネージャーが養成され、修了生は3,400名を数えます。多くの地域は建築士を対象としてへ



セッションイメージ(昨年大会より)

リテージマネージャーを養成してきましたが、歴史的建造物を持続的に活用していく仕組みをつくっていくためには、公費に頼ることなく事業として自立できるモデルを構築し展開していく必要があります。さらに、観光・不動産・起業家など建築士以外の多様な人たちとの連携についても議論を深めていきたいと考えています。

日時…平成29年12月8日(金) 10:00~12:00

会場…京都市勧業館「みやこめっせ」特別展示場A

定員…250名(予定)